

**坂下高校 賢・剛・優 フィールドワーク**

7月4日(火)、2年生地域探究科と、3年生普通科が「総合的な探究の時間」でゼミごとに取り組んでいる「地域を題材としたテーマ」についてフィールドワークを行いました。「全日本フォークジャンボリーを深掘りする」「坂下地区の飲食店マップ作り」「阿寺断層を知ってもらう」「子どもの貧困と子ども食堂」など多様なテーマを定め、それぞれが設定した目標を達成するために、現地への視察に赴きその対象となるものを実際に観察したり、関係者への聞き取り調査やアンケート調査などを行ってきました。今回調べたことを含めてテーマ目標の解決に向けて考えていきます。その成果を1月に発表します。



**坂下中学校 超升先輩 職員応急手当講習会**

7月24日(月)、学校職員対象の応急手当講習会を講師に坂下分署救急救命士の方にお越しいただき行いました。講習会で、心肺停止後、もっとも大きなダメージを受けるのは脳であること、救急隊が到着してから救命処置を行っても手遅れであり、応急処置が大切であることを学びました。その後、人形を用いた心肺蘇生法やAEDの利用について練習を行いました。AED装置が、電気ショックの必要性がないと判断した場合でも、心臓が動いていない場合は、心肺蘇生法を継続して行う必要があること等を学びました。また、危険予知や生徒の健康状態の把握を行っていく必要があることを感じました。



**坂下小学校 トップアスリート ひとりだち 出前指導**

7月12日(水)、4~6年生を対象とした「岐阜県トップアスリート出前指導」があり、水球の小椋裕介選手を招いて、クロールの泳法などを学びました。授業では、小椋選手にお手本を見せてもらったり、手や足の動かし方のコツや練習方法を教えてもらったりしました。後半には、水球で使用するボールを触ったり、水球の泳ぎ方を見せてもらったりしました。児童は「泳ぎが速くて驚いた。」「立ったように泳げることがすごいと思った。」「教えてもらったことを意識して泳げるようになりたい。」などの感想を話していました。児童が水中競技に親しんだり、泳力を向上させたりする機会になりました。



**やさかこども園 年長組の合宿 かがやく瞳**

7月7日(金)、年長組のデイ合宿が行われました。夏祭りでは、お客さんを楽しんだ後、自分たちがお店屋さんになって、小さい子を招待して楽しみました。「いらっしやい、いらっしやい。」と、元気な声が飛び交いました。午後からは、ご飯やお風呂、キャンプファイヤーの準備にすいか割り、友達と力を合わせて頑張りました。お宝探検では、勇気を出して天狗の大將に会いに行き、無事全員がお宝をもらうことが出来ました。挑戦してみることで、少し強くなれた子どもたちでした。自分たちで作った美味しいカレーを食べ、お風呂、花火、キャンプファイヤーと楽しみました。



《9月の主な行事》

日	曜日	行事名	時間	場所
10	日	秋季クリーンキャンペーン		
11	月	いきいき元気教室	13:30~14:30	坂下公民館
17	日	椈の湖そばの花まつり 2023 in 月の市【18(月・祝)まで】	10:00~15:00	椈の湖自然公園
20	水	行政・人権相談	13:00~15:00	坂下総合事務所 第2庁舎
26	火	定例区長会	13:30~	坂下総合事務所 第2庁舎
29	金	やさか地区農業委員会 農地相談	9:00~ 9:30~	坂下総合事務所

人口と世帯数

(令和5年8月1日現在)

人口	4,094人(前月比4人減) 男1,986人、女2,108人
世帯数	1,670世帯(前月比増減なし)

ごみの収集日

燃えるごみ	毎週 月・木曜日
燃えないごみ	9月 6日(水)
資源・硬質ごみ	9月 13日(水)
大型ごみ	9月 15日(金)
有害ごみ	9月は収集がありません

慶弔のお知らせ

7月11日から8月10日の  
坂下総合事務所への届出分

- ご逝去 (敬称略)
- 吉村 利保 (85歳) 握
- 北原 久治 (86歳) 島平 1
- 原 磯太郎 (86歳) 時 鐘
- 吉村 陽二 (76歳) 中之垣外
- 松井 富美子 (88歳) 新 田
- 小林 千小枝 (91歳) 松源地
- 市脇 庸介 (56歳) 高部 1

編集・発行

中津川市 坂下総合事務所  
 電話 0573-75-2111  
 FAX 0573-75-4704  
 Mail sakashita-office@city.nakatsugawa.lg.jp

2023年(令和5年)9月1日

**さかしたタイムズ**  
ときめき・かがやき・つながる さかした



**与三郎まつり 2023 in きりら 月の市 が開催されました**



8月11日(金・祝)、道の駅きりら坂下駐車場及びきりら公園で、与三郎まつり 2023in きりら月の市(主催 与三郎まつり 2023in きりら月の市実行委員会 実行委員長 大塚 隆春・鎌田 則之)が開催されました。与三郎まつりは4年ぶりに開催され、大型トラックの荷台を利用して設けられたステージでは多彩なステージイベントが行われ、お祭りを盛り上げていました。同日、きりら月の市も開催され、キッチンカー等で飲食物の販売、マルシェで雑貨等の販売が行われました。お祭りの終盤には、抽選会が行われ、地元企業等から多くの豪華商品が提供され、当選者に手渡されました。また、消防車と救急車の展示も行われ、子どもたちが体験用の消防服を着用して記念撮影をする等楽しんでいました。当日は、好天にも恵まれ、約2,000人の来場者があり大盛況でした。【敬称略】



**椈の湖そばの花まつり 2023in月の市を開催します**

- ・日程 9月17日(日)~9月18日(月・祝)
- ・時間 10:00~15:00
- ・場所 椈の湖自然公園
- ・内容 カフェ・かけそばの販売・バザー・各種イベントが行われます。
- 【イベント】
- ・木工体験 17日(日)のみ10:00~15:00(無料)
- ・熱気球体験 18日(月・祝)のみ8:00~13:00(有料)
- ・絵てがみコンテスト 17日(日)~18日(月・祝)10:00~15:00
- ・フォトコンテスト 撮影期間 9月1日(金)~9月24日(日)
- ・椈の湖そばの花畑ウォーク 24日(日)のみ 受付9:30~9:50 スタート10:00(有料)小学生以下は保護者同伴

※そばの花畑自由観賞週間 9月19日(火)~9月24日(日)

<問合せ> 椈の湖そばの花まつり実行委員会  
(やさか観光協会内) TEL75-4444



## 夏休みの講座を開催しました



7月27日(木)、「わくわく体験クラブ」では、中津川市子ども科学館の鎌田館長を講師に迎え、ボランティア参加の坂下中学生2名に手伝ってもらいながら、紙飛行機、ストロー飛行機、ブーメラン、スライムを作りました。

紙飛行機は、翼の向きを変えることできれいに浮き上がったり、曲がってまっすぐ進まなかったり。それぞれ個性のある飛行機を作り上げ、最後には、みんなで一緒に飛ばして、どれだけ飛んだかを競いました。



↑わくわく体験クラブ 紙飛行機作りの様子

7月28日(金)、坂下高校福祉課の皆さんに協力してもらい、夏休みふれあい講座「めざそう福祉探偵」を行いました。坂下高校福祉棟を会場に、高齢者疑似体験セットを着けて、坂下高校の皆さんに介助されながらポッチャや豆移し、入浴機械体験をしました。

この福祉体験を通して、介護を受ける人の気持ちに寄り添う大切さを学びました。



↑めざそう福祉探偵 高齢者疑似体験の様子

## 文化祭出展者募集のお知らせ

坂下文化協会主催の「2023 文化祭」を11月2日(木)～4日(土)に行う予定です。

文化協会所属サークルの他に、個人・団体を問わず一般の方からの出展も募集していますので、どうぞみなさんご参加ください。

募集締め切り 9月20日(水)

<申し込み・問い合わせ先>  
坂下文化協会  
(坂下公民館内 TEL75-3115  
平日 9:00～17:00)



## 文化協会 50 周年事業 加納洋コンサートが開催されました



7月30日(日)、坂下公民館で中津川市出身の加納洋さん(ボーカリスト・ピアニスト)のコンサートが開催されました。

このコンサートは、やさかひまわりの会と坂下地区社会福祉協議会の協力・協賛のもと、坂下文化協会 50周年記念事業として行われたものです。

加納さんは現在ニューヨークに拠点を置き、盲目でありながら国際的に活躍されているミュージシャンで、伸びやかな歌声や迫力ある演奏からなるジャズやポップス、楽しいトークで、訪れた約130人の観客を魅了しました。

## 郷土文化財紹介

郷土文化財保存会会員  
たぐち のりいち  
田口 憲一

### <賤母発電所のこと 5 その後>

福沢桃介氏は木曾川の水力開発を進める上で「一河川一社主義」を主張し、それを実現しました。現在、木曾福島にある二つの発電所と阿木川の一つをのぞいて、最上流の三浦発電所から美濃加茂にある美濃川合発電所まで、関西電力の発電所が34箇所あります。これらの総発電力は約108万キロワットで、関電管内で水力発電の三分の一を占めています。木曾川は近畿地方に国産の貴重なエネルギーを供給しているのです。

賤母発電所の建設から始まった木曾川中流の水力開発は、戦後復興期の電力不足を賄うため急ピッチで進められ、1955年の丸山発電所完成で一段落します。しかしながら、その後も経済発展に伴い電力需要は急増・多様化します。電力需要が午後の特定の時間に集中する、いわゆるピーク負荷への対応が求められました。このため木曾川の再開発は水路式で最古参の賤母発電所から始まりました。賤母発電所の最初の堰堤より下流に山口ダムを造り、新設の山口発電所と旧来の賤母発電所の両方へ送水出来るようにしました。山口発電所は賤母より下流の半地下に設けることで有効落差が16mも増え、使用水量も毎秒78立方メートルとなったため、出力は42,000Kwと賤母発電所の倍以上になりました。ダムに貯水できることで、ピーク負荷時に出力を増やすことが出来るようになりました。

山口発電所は昭和30年12月着工、32年暮れに完成し発電を開始しました。対岸の工事にもかかわらず、工事事務所は新田に置かれ、工事関係者が2千人も来ると言うことで坂下町としては学校・病院の対応や、風紀治安対策など大変でした。しかし、特需による地元への経済効果は少なく期待外れに終わったそうです(平成16年版町史)。

昔は発電所の運転は現地で行っていたので、発電所の近くに社宅があり常時対応できるようになっていました。昭和40年代から遠隔制御が可能になり発電所の無人化が進んで、山口と賤母発電所は須原の制御所で運転するようになりました。昭和60年からは名古屋の東海支社で、令和4年からは大阪の総合水力制御所で監視しているそうです。このため発電所の近くにあった十数戸の社宅は無くなりました。この社宅の子供たちは対鶴橋を渡って、坂下の学校に通っていました。この事は年配の方はよくご存じのことです。

新しい発電所の方が効率が良いので山口を優先的に動かし、賤母発電所は余水のある時やバックアップ用として運転している様です。乙姫橋から上流を見ると、どの発電所が動いているかおおよそ分かります。

木曾川上流では、発電に水を使うため川には殆ど水は流れておらず、白い花崗岩ばかりが目立ちます。近年では環境問題がクローズアップされ、野尻にある読書ダムと吾妻の山口ダムの直下に維持放流を行うための小さい発電所が作られています。それぞれ大桑野尻発電所、南木吾妻発電所と呼ばれて毎秒2.8立方メートルが放流されています。これくらいの水で川魚が住み続けることが出来るか分かりませんが、浄化には役立っていることでしょう。

賤母発電所は幾多の変遷を経て、令和元年100周年を迎えました。人間なら百歳を超えても、今なお**矍鑠**とした現役です。この先もクリーンエネルギーを生み出す活躍が期待されます。

参考資料：賤母発電所100周年記念写真帖など

↓ 山口発電所放水口



↓ 吾妻の山口ダムの維持放流



↑ 工所用與川発電所の写真が見つかりました。



毎月第3日曜日は「家庭の日」 中津川市青少年健全育成推進市民会議

いざというとき だいじょうぶ